

中国太郎の発掘日記

島根県埋蔵文化財調査センター
TEL0852-36-8608
江の川改修発掘調査事務所
TEL0855-52-7195

島根県埋蔵文化財調査センターからのお知らせです

現地説明会を開催しました！



タローくん

6月から開始した江の川河川改修事業にともなう発掘調査も約4ヶ月が経ち、10月6日(日)には調査の成果をご覧いただくため現地説明会を開催しました。多くの方に足を運んでいただき、感謝申し上げます。本号でも改めて現在までの調査成果をご紹介します。

もりばらしものほら 森原下 / 原遺跡 (江津市松川町八神)

現在、室町時代から江戸時代(700~400年前)の遺構面(生活面)を調査中で、柱の根本に石を敷いて基礎とする礎石建物跡や地面に穴を掘って柱を固定する掘立柱建物跡、鍛冶炉跡、畑跡などが見つかっています。

遺跡の意義

- 江津市内では桜江町で室町時代の製鉄炉が確認されていましたが、今回松川町においても室町時代に鉄製品を生産していることが分かりました。
- 今回の調査では一般的な集落の跡は確認されていません。洪水の危険がある川岸には住まず、生産した鉄製品を運び出すために江の川を利用していたのかもしれませんが。
- 松川町には松山城跡など、同じ時期の文化財が確認されており、今回の調査成果と合わせて地域の歴史を紐解く重要な資料と言えます。



現地説明会の様子



鉄製品と鍛冶関連遺物

左から中央が鉄製品、右側は鞆の羽口ふいごや鍛冶滓はくち かじさい

見つけた鍛冶の跡

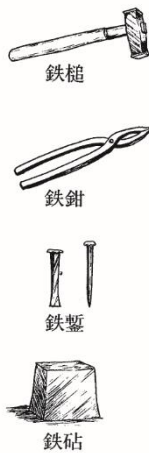
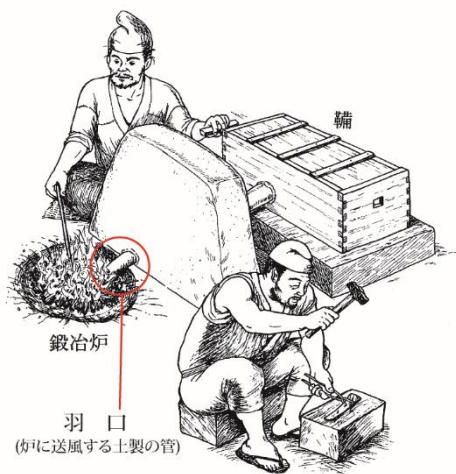


イラスト 竹井真知子 (潮見浩著『図解 技術の考古学』(改訂版) 有斐閣、2000年より)

鉄製品は原料から鉄をつくる「製錬(せいれん)」、できた鉄を鉄素材に加工する「大鍛冶(おおかじ)」、鉄素材をさらに加工して道具を作る「小鍛冶(こかじ)」などを経て作られます。

森原下ノ原遺跡では、室町時代の小鍛冶の跡が確認されました。そのほか江戸時代の遺構面でも鍛冶炉跡が見つかっています。



室町時代の鍛冶炉跡

窪みの中に鉄製品を作ったときに出る不純物(鍛冶滓)が残っていました。



江戸時代の鍛冶炉跡

厚く粘土が貼られている様子が確認できます。

見つけた建物の跡



室町時代の礎石建物跡

東西4m以上、南北10mの規模です。人が立っているところで礎石を確認しています。

お知らせ

発掘調査はまだ終わりではありません！

現在調査中の室町時代の生活面の下には縄文時代から古墳時代にかけての遺物が大量に出土する地層を確認しており、引き続き調査を行っていきます。

今後調査が進みましたら改めて成果をお知らせしますので楽しみにお待ちください！

お楽しみに！

